



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課
南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-52-1359
TEL 0993-22-6422

枕崎市大塚キク「夏期専用肥料」開発の取組

1 周年菊研究会について

枕崎市大塚地区では、青年8名が周年菊研究会を組織し、生産向上に取り組んでいます。研究会では、平成30年に土壌のリン酸過剰の緩和と省力化を目的に冬作専用のリン酸を含まない基肥一発型肥料「一発きくどん有機入り」を開発し、活用していました。

しかし、夏期のキクでボリューム不足が見られるという声もあり、その対策をプロジェクトに位置づけて、夏期専用肥料の開発に取り組みました。

2 肥料成分の検討

夏期専用肥料の開発に向けて、8月出し栽培時の肥料の効果について、シミュレーションを用いて成分の検討を行い、「一発きくどん有機入り」では、生育後半にかけて肥料切れが発生することがわかりました。

そこで、新肥料の肥料成分は、生育後半まで効果が持続するように設定し、サンプル肥料を用いた比較試験を行うことにしました。

3 試験ほ場の設置・結果

肥効と輪ギクの生育の関係を把握するため、6月出し、9月出し、11月出しの3作型に分けて試験を行いました。

その結果、6月出し以降となる7月から11月出し栽培で、夏ギクのボリュームアップ(階級アップ)が確認できました。



夏期サンプル肥料区(右)はボリュームアップ

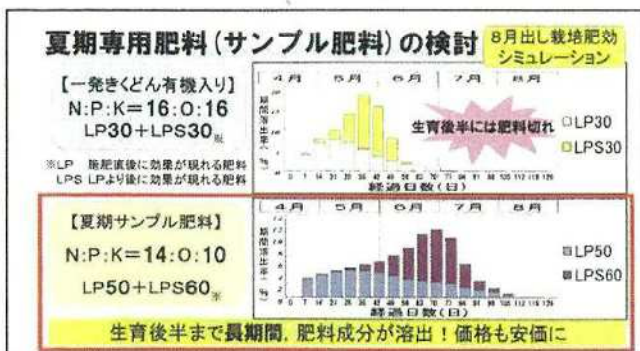


現地検討会で夏期専用肥料の効果を確認

4 今後の取組

研究会で、夏期専用肥料の名前を「夏きくどん」に決定し、令和4年3月頃から販売が開始される予定です。

今後は更なる花き栽培・経営の改善のために、省力化・高品質生産に努め、コロナ禍の販売状況下で有利な栽培体系が構築できるよう取り組んでいきます。



肥効シミュレーションによる肥料成分の検討

サツマイモ基腐病の対策について

サツマイモ基腐病発生防止に向け、農家の皆さんをはじめ地域一帯となって努力してきたところですが、令和3年産では94%のほ場で、基腐病の発生が確認されました。

令和4年産以降の発生を抑えるため、「持ち込まない」「増やさない」「残さない」の3つの対策に総合的に取り組みましょう。

また、今後の作業のポイントを紹介しますので、栽培時期毎の対策をお願いします。



〔令和3年10月中旬の発生ほ場〕

1 採苗～苗消毒

苗採苗時のハサミはこまめに消毒し、株の地際から5cm以上のところで採取し、ベンレート水和剤またはベンレートT水和剤を用いて、採取当日に必ず苗消毒をしましょう。
(500～1000倍希釈液に30分以上)

ベンレート水和剤は、植付後1ヶ月程度は残効が期待できます。濃度や処理時間を守り、作り置きはしないようにしましょう。購入した切り苗も、消毒してから植え付けてください。

2 ほ場準備

昨年、基腐病が多く発生したほ場を避け、排水対策を行いましょう。可能なら、これまでさつまいもを作付けしていない、または2年以上植え付けていないほ場を選んでください。

3 生育初期からの予防的農薬散布の徹底

(1) 1回目の散布

1回目は苗消毒の効果が切れる、植付後30日頃にアミスター20フロアブルを散布します。

(2) 2回目以降の散布

1回目の散布後、10日間隔でZボルドーまたはジーファイン水和剤を散布します。

つるが通路に下りて、動噴での散布が困難になる前に2回目のアミスター20フロアブルを散布します。

大雨や台風で、茎葉が傷ついた後に、3回目のアミスター20フロアブルを散布します。

※ アミスター20フロアブルは連続散布により耐性菌が出現し、効果が低下する恐れがあります。連続散布にならないように、他薬剤と交互に散布してください。(アミスター20フロアブルの使用回数：3回以内)

<基腐病防除体系>

生育ステージ	定植2週目～	定植5週目頃	定植7週目頃	定植9週目 (茎葉が畝間を覆う)	大雨・台風
発病状況	発病株散見 苗消毒で取りこぼした株が発病する時期	発病株の増加 前作の土壌残さ由来の発病も始まる時期	二次伝染による病気の拡大 病気の拡散		病勢進展 地上部の一部が枯死
防除方法	苗消毒効果(定植5～6週目まで)	発病株の抜き取り			大雨後や台風通過直後に散布
		1回目散布	2回目散布	3回目散布	4回目以降散布
使用農薬		アミスター20フロアブル	Zボルドー または ジーファイン水和剤	アミスター20フロアブル	アミスター20フロアブル Zボルドー ジーファイン水和剤

* 「アミスター20フロアブル」は耐雨性と浸透移行性があり、予防的な使用での効果が期待できる一方、多発してから散布では効果が劣ります。発生前からの早期防除を心がけましょう!!

網もち病多発茶園での一番茶収量確保技術

1 網もち病とは

網もち病は、病原菌に感染してから2か月後の10月下旬頃から白い網目状の病徴が見られ、多発すると落葉・枝枯れが進展し、一番茶が減収します。



茶葉に発生した網もち病



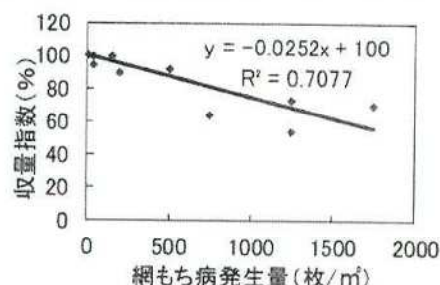
網もち病の多発生(11月)



多発後の落葉・枝枯れ(2月)

2 令和2年11月の網もち病多発に対する取組

令和2年11月に網もち病が多発し、一部茶園では発生量が約2,500枚/㎡と激発し、令和3年の一番茶収量が50%以上減収することが懸念されました(右グラフ参照)。そこで、11月に発病部位を整枝し持ち出した結果、令和3年の一番茶収量を確保し、秋の網もち病発生も抑制されたので、紹介します。



網もち病の発生量における一番茶の収量
(出典: 県茶業試験場)

(1) 実証ほの概要

- ア 品種: 網もち病に弱い「あさのか」
- イ ほ場: 有機栽培, 二番茶後深刈り更新園

(2) 実証方法

- ア 発病部位を切除するため、11月9日に摘採機を用いて最終摘採位置(親葉が2~3節確保できる位置)で整枝しました。
- イ 整枝と同時に、切除した発病葉を收容し、茶園外へ持ち出して病原菌を排除しました。



発病部位を整枝・收容

(3) 結果

- ア 整枝後、網もち病による落葉・枝枯れは見られず、整枝面の親葉に一番茶芽が着生しました。
- イ 一番茶の芽数は20cm四方枠あたり50本と、網もち病多発後に整枝しなかった区(非整枝区)の20本に比べて多く確保されました。その結果、10aあたり収量は540kgとなり、減収を抑えられました。
- ウ 荒茶の品質は、全窒素含有率が6.6%と高く、良好でした。
- エ 秋には、網もち病の発生はほとんど見られませんでした。



整枝面に一番茶芽が着生(3月)



萌芽後の生育(4月)

一番茶生育状況と秋の網もち病発病程度

	整枝区	非整枝区
芽数/20cm四方枠	50本	20本
芽揃い	良	不良
収量/10a	540kg	—
秋の発病程度	極少	中

肉用牛短期肥育マニュアルの活用で効率化を！

令和2年度に県で策定された「酪農肉用牛近代化計画」において、肉用牛肥育経営の競争力を強化するためには、肉質等の優れた特性を維持しつつ、肥育期間の短縮などにより飼料費の抑制や生産性の向上を図る必要性があるとしています。

ここでは、県畜産試験場で開発された「短期肥育マニュアル」の主だったポイントと経済効果についてお知らせします。

出荷月齢の早期化による効果

現状の約20ヶ月間の肥育期間を5ヶ月短縮し、生後24ヶ月齢で、通常出荷牛と同等の「枝肉重量」「肉質」で出荷した場合の試算。



肥育期間の短縮は回転率を向上させることから、飼養規模100頭当たりで試算すると、年間出荷頭数が**20頭増加**します。また、肥育牛1頭当たりの固定費を**約4.1万円**圧縮することが可能となります。

＜ポイント＞

- 給与飼料中のCP含量(粗蛋白質)を高い値に設定することで、肥育前期の粗飼料摂取量を高めています。
- 「短期肥育マニュアル」の効果を高めるためには、子牛を育成する段階でマニュアルに沿って飼養することが必要です。

○ 出荷月齢早期化のイメージと効果



【効果】

- 1 出荷頭数の増加(100頭規模) **+20頭**
 肥育期間：20ヵ月【100頭×12ヵ月÷20ヵ月=60頭】
 肥育期間：15ヵ月【100頭×12ヵ月÷15ヵ月=80頭】
- 2 固定費の圧縮 **▲4.1万円/頭**
 15ヵ月 20ヵ月
 $16.3 \times 15 / 20 = 12.2 \text{万円}$ ▲4.1万円
 固定費：16.3万円

農薬を知る・理解する・適正に使う

1 農薬飛散による被害発生を防ぐために
 学校、病院、公園等の公共施設や住宅地等に隣接する家庭菜園を含む農地では、農薬飛散による住民や子ども等への健康被害が生じないように、できるだけ農薬を使用しない管理を心がけましょう。
 また、農薬を散布せざるを得ない場合でも、農薬の飛散防止に努めて、十分な配慮をしましょう。



(1) 農薬使用の回数と量を減らそう

- ・病虫害、雑草の早期発見
- ・病虫害に強い作物や品種の検討
- ・農薬以外の物理的防除を優先 etc

(2) 飛散防止に最大限の配慮をしよう

- ・飛散しにくい農薬の選定
- ・農薬散布の事前周知
- ・散布区域に人が入らない対策 etc

2 残留基準値超過の原因は？

- ・使用慣れから、農薬ラベル(使用時期、希釈倍率等)の確認不足
- ・類似作物に適用があることから、使用したい作物にも適用があると思込み
- ・近隣農地からの農薬飛散
- ・防除器具の洗浄不足

3 不適正な農薬使用を防ぐポイント

農薬を適正に使用しないと、食品衛生法の残留農薬基準超過の危険性があります。

日頃から農薬ラベルを確認し、使用記録を記帳しましょう。



- ・適用農作物
- ・使用量・希釈倍率
- ・使用時期、使用回数を確認